

人口減少時代の自然空間管理

～その担い手と手法を考える～

日本では国土の3分の2を占める森林の多くが、
林業としての不採算から放置されてきたと言われています。
住民に身近な里山は、人間の利用によって里山特有の生物多様性が維持されることが近年明らかとなり、
誰がどのような手法で管理するのが重要な意味を持つなか、
生態系サービスを楽しみながら自然が持つ防災、減災等の機能も利用していく
グリーンインフラの考え方が注目されています。
フォーラムでは、比較的人里近い森林や河川敷地などのオープンスペースをフィールドとして
管理に取り組む団体から、現状や課題を報告してもらい、
今後人口減少が進む道内各地にある様々な
土地所有形態での管理手法やそのための
合意形成について考えます。

参加無料

参加申込書に
必要事項を明記して、
eメール又はFAXで
12/1までに申し込み
をしてください

日時 平成28年12月5日【月】 14:00～16:30**場所** 北海道大学「百年記念会館」 1階 大会議室
札幌市北区北9条西5丁目**次第**

● **主催者代表挨拶** ▶ 北海道大学公共政策大学院特任教授 **小磯 修二氏** (環境コモンズ研究会 座長)

● **基調講演** ▶ **グリーンインフラ**
～人口減少・気候変動下における防災と環境保全の両立～
北海道大学大学院農学研究院教授 **中村 太士氏**

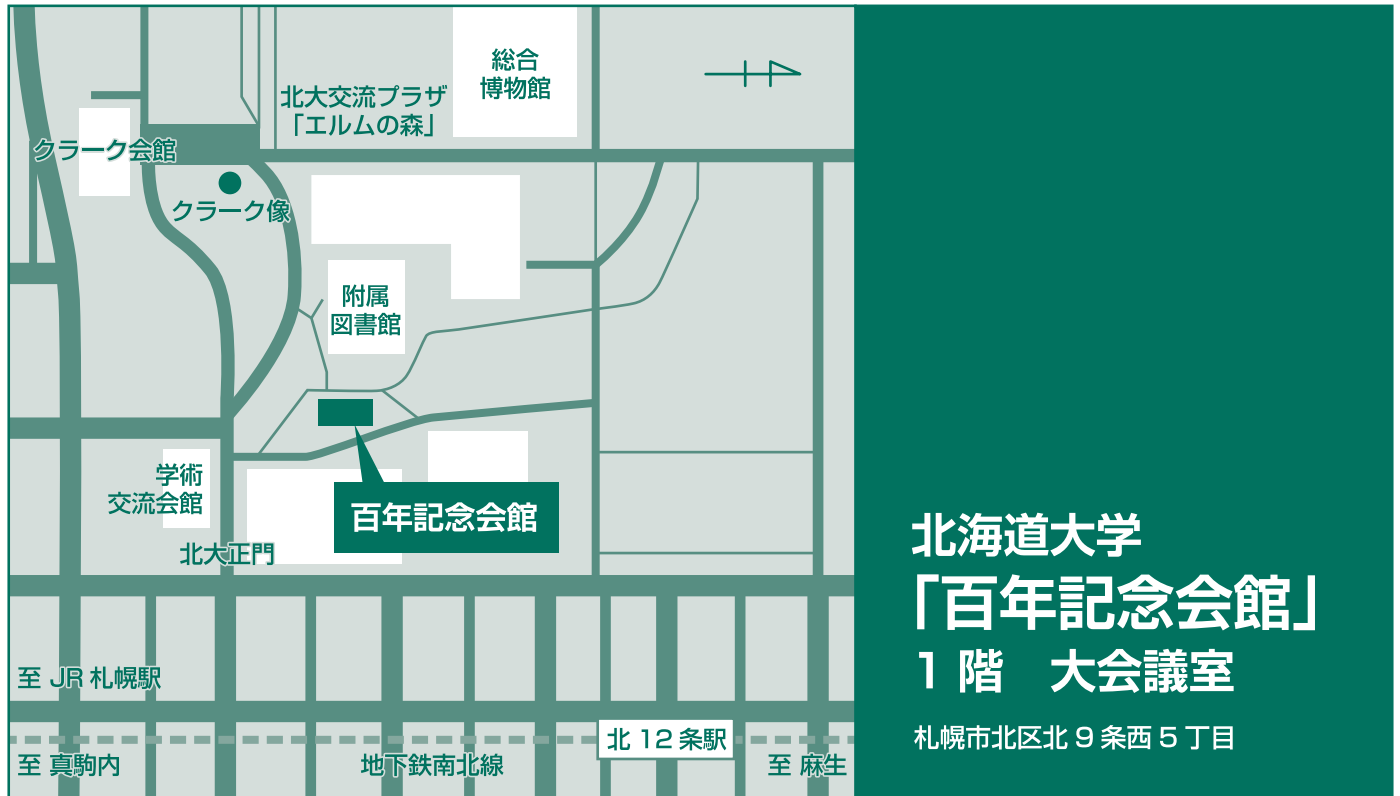
● **パネルディスカッション**

- ▶ **基調報告** 身近なオープンスペースを里地・里山にする意味
～地域ごとの森林公園を、こうして創る～ ◀ **草苺 健氏** (NPO 法人苫東環境コモンズ事務局長)
- ▶ **事例報告①** 白老町における里山の
放置林再生の取組みについて ◀ **辻 昌秀氏** (白老町農林水産課)
- ▶ **事例報告②** 地元のヤマに関わる ◀ **陣内 雄氏** (フリーのきこり)
- ▶ **事例報告③** 公有の森林、緑地の共的管理の取組について
～むかわ町有林と帯広の森の事例～ ◀ **日月 伸氏** (帯広の森はぐくむ副施設長)
- ▶ **コーディネーター** 小磯 修二氏 (北海道大学公共政策大学院特任教授)

共催 / 北海道大学公共政策大学院公共政策学研究センター 環境コモンズ研究会 (一般財団法人北海道開発協会)
NPO法人苫東環境コモンズ

お問合せ / (一財)北海道開発協会 開発調査総合研究所 TEL 011-709-5213 担当: 佐々木 kenkyujo@hkk.or.jp

会場案内



参加申込書

お申し込みは、下記の内容を明記の上、eメール又はFAXでお知らせください。

(一財)北海道開発協会 開発調査総合研究所内

eメール. com6@hkk.or.jp / FAX. 011-709-5225

ふりがな	
氏名	
連絡先住所	〒 _____ _____ _____
電話番号	_____ (自宅・勤務先・携帯)
メールアドレス	

※ご記入いただいた個人情報は、フォーラムに関する目的にのみ使用し、他の目的には使用いたしません。